

お水ね

お水ね いっ 候いはじめにわかれなす

かし前は 今うたにエンゴにさく

アアヤサクいのうた

おかわの両方さしに サングレをフケていたり

宝石お水ねのりて おかわそのま

大車お水ね

そのころは 手おかわと 之いお水ね

使いはじめにわかれ 乱社のお水ね

息のり

目お水ね フケお水ねを見て このころから

おかわを候てりてとわかれ

今は最近両方と 近くを見るもそのま

ルべお水ねのこすわい字は わかり

長い田 候て素目

つかれていと思ふ 大それと思つてい

朝かう わるそで けおを見てい

何かかくともお水ね

手と同じく 仲あつたお水ね

手も目も よく知りてい

目おね午しでは 字かふゆ存ひし
かく 歌三と 出果 字ひ

手元甲のゆおねで字をかくと

小さくなる

つとゆ乙大きくかいていゝつとリ存ひ

小さい

手元甲のゆおねは 青葉

広大していゝため字の形がゆで大きく

見えよ 実方いほ小さいとゆかうた

ともあね ゆおね さすさす目を送ってい

2023
6/1